

見附台周辺地区土地利用計画一改訂整備方針一(素案)に対するご意見及び市の考え方について

パブリックコメント募集の概要

- | | |
|-----------|-------------------------------------|
| 1 意見の募集期間 | 平成28年12月2日(金)～平成29年1月4日(水) |
| 2 意見の提出方法 | 郵送・直接持参(「市長への手紙」の利用を含む)、ファックス、電子メール |
| 3 提出者数 | 49名、9団体 |
| 4 提出意見数 | 86件(同様意見数含む) |

意見の内訳表(17項目)

No.	項目	意見数	反映数	参考数	No.	項目	意見数	反映数	参考数
No.1～7	まちづくりについて	7	5	2	No.26～34	(仮称)新文化センターについて	10	2	8
No.8～11	公共施設について	4	0	4	No.35	文化情報の発信と交流や賑わい創出について	1	0	1
No.12～13	駐車場について	2	0	2	No.36～41	小ホールの建設について	8	0	8
No.14	防災機能について	1	0	1	No.42～51	ホールの客席数について	10	0	10
No.15～17	商業・業務等施設について	3	0	3	No.52	文化活動支援機能について	1	0	1
No.18	環境配慮型施設について	1	1	0	No.53	エントランス、動線について	1	0	1
No.19～21	施設計画について	28	0	28	No.54～56	崇善公民館について	3	0	3
No.22～23	事業手法について	2	0	2	No.57～58	崇善公民館と市民活動センターの合築について	2	0	2
No.24～25	駅西口からの連続性の確保について	2	1	1		合計	86	9	77

<問い合わせ先>

平塚市都市整備部都市整備課

電話番号 0463-21-8783

FAX番号 0463-21-9769

Eメール machi-j@city.hiratsuka.kanagawa.jp

No.	項目	意見の要旨	同様意見	市の考え方	対応
1	まちづくりについて	見附台周辺地区は、新たな拠点として平塚市の魅力アップの促進につながることから、早期の整備を願いたい。		今後公表予定の改訂整備方針に基づき、事業の早期実現を目指します。	反映
2		素案の通り、市民センターの耐震化を実施せず、整備事業の推進を願いたい。			反映
3		魅力あるまちづくりを市役所職員が一丸となってあたって欲しい。市のホールが中央公民館のみの状態が今後5年先くらいまで続くことは問題である。		今後も見附台周辺地区整備事業を着実に進めていきます。 なお、現市民センターについては、耐震診断の結果を踏まえ、利用者の安心安全の確保を最優先とし、平成27年4月以降のホールの使用を停止し、市民センターの耐震化の検討を行いました。現市民センターの耐震化と新たなホールの整備事業とのメリット・デメリットを比較した結果、整備事業を推進することとします。	反映
4		今、市民が使用できるホールは中央公民館の大ホールしかない。一方、地区公民館のような舞台が低く、小さいホールが複数あるが非常に使い勝手が悪い。講演はできるが、音楽や劇場的に使えるような舞台ではない。いわゆる劇場的なホールは中央公民館しかなくこれが33年まで続くので、早期整備を望む。			反映
5		公共施設は単なる建て替えではなく、見附町全体のまちづくりを意識してもらいたい。			定期的に集客が行える施設を整備することにより賑わいを創出し、中心市街地の活性化につながる整備事業を推進します。
6		平塚のまちをみると、駅から離れたところに商業施設がいつぱいできている。市街地はほとんどんさびれているというか、大衆から離れているように感じる。市民センターの場所は非常に良いところで一等地だと思うが、そこに平塚らしい一大文化施設をぜひ作ってほしい。		参考	
7		市民委員が検討に加わる必要があるのではないか。検討委員会を組織し、市民の意見を踏まえながら整備する形が良い。		これまで、見附台周辺地区整備事業は、平成17年から市民が参加する「見附台周辺地区まちづくり委員会」を立ち上げ、検討を行い、平成18年に基本構想、平成20年には基本計画を策定しました。 次のステップに位置付けられる本改訂整備方針(素案)についても、今までと同様に広く意見を募るため、今回のパブリックコメントや説明会を開催しました。 検討委員会を組織する予定はありませんが、今後も市民のみなさんからご意見をいただきながら、事業を推進します。	参考
8	公共施設について	活用案は現状活用の範囲を超えていない。 市民センター改修や1000名規模のホールを作るとのことだが、平塚市の箱ものは十分。中央公民館や博物館、美術館、図書館等立派なものがあり、身の丈にあっていない。		平成18年3月に「(仮称)新文化センター基本構想」を策定し、理念や施設の使命をまとめており、文化創造拠点として(仮称)新文化センターの整備は必要としています。本改訂整備方針もその考え方を踏襲します。	参考
9		予算面での限界性や人口減少傾向が続く中、果して新文化センターは後世に重い負担を背負わせることにつながらないかと不安材料が積みまとう。			参考
10		当計画では新文化センターが対象となっているが、今後、図書館や博物館といった施設なども改修や再整備等の話が出てくるものかと考える。そうであれば、一体での整備など新文化センター個別に止まらない公共文化施設全体から見た検討も求められないか。		これまで基本構想や基本計画の策定にあたり、市民参加での議論を行い、公共施設の導入機能については、(仮称)新文化センターを中心とした施設の集約化をしています。	参考
11		浅間町に配置されている「青少年会館」や「教育会館」なども老朽化やバリアフリー対策、駐車場の確保など、多くの課題を有しており、そうした機能を兼ね備えた複合施設の検討を願いたい。			参考
12	駐車場について	これからは高齢化となり車の時代となるので、駐車場の台数の確保をしっかりとすることによって集客につながると思う。		駐車場については、民間事業者からの提案により必要な台数分を設けます。提案を基に、過去のデータや交通計画を加味しながら、適正な駐車場の規模や配置を決定します。 また、レンタサイクルについては市内の各拠点の整備状況を見ながら整合性を図ります。	参考
13		公共施設に見合った駐車場の確保はしごく当然の帰結と思われるが、データとの比較検討がなされなければ、ただやみくもな駐車場の拡大をはかることはナンセンスである。駐車場駐輪場等レンタサイクルやL、R、Tの導入(連続性の確保)を合同させて推し進める必要がある。従来までの車の流れや昨今から予想される車の流れを比較対照してこそ、説明が十分できるのではないか。			参考

14	防災機能について	防災機能でも先進例を取り入れ、利用者が納得のゆく設備を求めたい。		整備事業の進捗に伴い、平塚市地域防災計画への位置づけや具体的な設備の検討をしていきます。	参考
15	商業・業務等施設について	商業スペースは必要か 商業を基盤とするのではなく、文化の香り、文化の誇りとなるショップがあればと思う。 文具・本・オフィス家具・楽器・画材などの専門店 会議室が充実していれば、研修会等が開催され、ホテルやレストランなども必要とされ、市外、県外、海外からの集客が見込まれるのではないかと。 また商業ベースにはならないと思うが、保育施設、一時預かり保育所などがあれば、ホール利用者の若返りが計れるのではないかと。		民間施設の業種は商業・業務施設や保健・介護系施設、居住施設、宿泊施設などをイメージしており、商業に限定しているものではありません。全体の構成や、具体的内容は今後の公募による事業者の提案によりますが、中心商業地の活性化、回遊性、賑わい創出につながる施設の誘致を図ります。	参考
16		市民センターの利用以外にも商業的施設や人を集客できるような魅力ある複合施設の検討を願いたい。	参考		
17		商業スペースは大ホール、小ホール、リハーサル室、楽屋、会議室、練習室等を充実させればそんなに作れないと思うが、フリーでも入れる、レストラン、ギャラリーがあるとよい。	参考		
18	環境配慮型施設について	P13 3 各ブロックの整備計画 (1)A・Cブロック共通 ②導入機能 h 環境配慮型施設に、下線部分の追記を提案する。 各施設については、 <u>高効率な省エネルギー設備・機器(燃料電池やコージェネレーション等)</u> 、太陽光発電、屋上・壁面等の緑化、電気自動車及びバイク用充電スタンドを設置する等、環境に配慮したものとします。 (理由) 現在検討中の「平塚市環境基本計画(素案)」のP27「●重点施策に沿ったテーマの方向」において、利用を広く普及させる設備として、太陽光発電などの再生可能エネルギーと並び、「高効率な省エネルギー設備・機器(燃料電池やコージェネレーション等)」の記載がある。さらに、太陽光発電は、時刻・季節・天候によって出力が変動する不安定な一面がある。貴市内の政策の整合性を図ること、また、太陽光発電を補完するシステム導入も必要かと考え、本提案をさせて頂く。		ご意見の通り、平塚市環境基本計画(素案)に位置づけられており、整合を図るため追記をします。	反映
19	施設計画について	サッカー専用スタジアムを作ってほしい。	他6件	見附台周辺地区は平成18年度より一貫して本整備事業の事業用地として検討を重ねてきた公共用地です。 なお、全国にあるサッカー専用スタジアムを参考に、建設の可能性を探りましたが、最も広い敷地面積のAブロック内でも収まらないことや、都市公園法上、不可能という結論に至りました。 本整備事業は、見附台周辺地区内に所存する老朽化した、公共施設の機能を再配置し、さらには民間施設を誘致することで、見附台周辺地区ににぎわいを創出し、地域の活性化を目指します。	参考
20		集客や地域への経済効果、子どもたちの夢やサッカーのすそ野を広げるためにも平塚の財産である湘南ベルマーレのサッカー専用スタジアムを作ってほしい。このまちのさらなる発展のためにも、スタジアムを建てることで地域の活性化に繋がると思う。	他9件		参考
21		平塚市をより一層魅力のあるまちにするには、コンサートなど様々なイベントも開催可能なサッカースタジアムを建設してほしい。駅にも近く集客も見込め、若い人たちが居住して子育てをできるまちにするための魅力のひとつができると思う。	他10件		参考
22	事業手法について	民間に払い下げるとか等価交換とかで、湘南ベルマーレの新スタジアム建設資金に役立てたほうがよい。その方が平塚市の発展に寄与できると思う。		見附台周辺地区は平成18年度より一貫して本整備事業の事業用地として検討を重ねてきた公共用地であることから、売却する予定はありませんが、公有資産の売却については、その必要性を考慮した上で売却を含め活用しています。 また、本整備事業のA・Cブロックの事業手法は、事業費用の大幅な縮減が見込める「公的不動産の有効活用等の民間提案活用型PPP事業」で進めます。	参考
23		民間資本の活用により公的負担の軽減や点在する行政資産(不動産)を売却し、建設費用に充てることで少しでも特別支出を抑制できるような検討も願いたい。			参考

24	駅西口からの連続性の確保について	平塚駅西口から見附台周辺に向かう導線における風俗店舗街の浄化を検討していただきたい。多くの他都道府県、他市町村から平塚に来訪される方にも安心して歩ける見附台までの道を用意するのは、市や周辺の住民にとっても良い機会であるとする。		本事業では土地利用の基本理念である、市内外から多くの人が集まる複合交流拠点の整備を目指します。 既存の市道錦町1号線をJR平塚駅西口からのアプローチ動線として、歩行者等の安心・安全な移動に配慮し、連続性を持たせます。	参考
25		周辺都市、もしくは日本全国から集客できるようアクセス・アプローチを整える。			反映
26	(仮称)新文化センターについて	市民センター建替 小田原市民会館の建替コンパクト化を例に県、近隣市、町との企画に依る総合文化施設検討をお願いしたい。		本事業の文化施設については、平成18年3月に策定した「(仮称)新文化センター基本構想」の考え方を基にしています。文化振興の拠点づくりを基本方針として掲げており、県や近隣市等との連携による総合文化施設については、検討しませんが、小田原市等、他市のホール整備事例を参考に効率的・効果的な施設整備に向けて検討を進めます。	参考
27		一流の演奏・演劇などを開催できる茅ヶ崎市民ホール並みの大ホールを平塚にもほしい。立派なホールさえあれば近隣市町村の観客も呼び込むことができるだけでなく、何よりも超一流の演奏、演劇などを楽しむことができ、平塚市民の民度向上にきつと役立つ。		ホールについては、オーケストラや吹奏楽などの編成の大きな利用に対応できるよう配慮します。また、整備後は、県内外からの集客を見込めるような魅力的な事業の展開を図っていきます。	参考
28		クオリティとアメニティを重視して、このエリアを代表する全国に名の知られる未来志向のホールを建設するのが最善策だと思う。			参考
29		改訂整備方針である為に具体的な設計段階の説明が見えていない。より具体性ある説明をもって意見を求めるべきなのではないか。		本事業のA・Cブロックの事業手法は、事業費用の大幅な縮減が見込める「公的不動産の有効活用等の民間提案活用型PPP事業」で進めますので、事業者から提案を受けた段階で具体的な計画をお示しし、意見を求める予定です。 今後予想される人口減少や少子高齢化、さらに財政状況を踏まえて、将来に渡り持続可能な管理運営を行います。	参考
30		大ホールよりも、圧倒的に小ホールの利用頻度が高らかに数多くなる。よりコンパクト化され、利用勝手のよい機能を備えてほしい。様々なジャンルの音楽芸能演劇など対応可能となれば音響照明は重構造になりうるので搭載の重量を検証してほしい。また、落下事故原因に(漏電)なり得る。警備面からもよく考慮する必要がある。 1,000~1,600人規模の人員収容となれば、防災面からエントランスホールとの接続も含めて検討しなければならない。		(仮称)新文化センターの整備にあたっては、専門技術者やこれまでの利用状況等を踏まえ、利用者の使いやすさや安全性に十分配慮します。	参考
31		舞台の奥行や袖の広さは充分に取って欲しい。時代に添った施設・設備になると思うが、搬入口から舞台、楽屋の動線は充分に考慮して欲しい。	他1件		反映
32		大規模な会議や集会(大会)ができ、避難施設にも利用できる、バンケットホールのような用途も検討願いたい。		利便性や機能性の高い、多目的に活動いただけるスペースの設置を考えています。具体的な規模や機能については今後検討してまいります。 また、防災機能については、整備事業の進捗に伴い、平塚市地域防災計画等に役割を位置付けることや具体的な設備の検討をしていきます。	参考

33	(仮称)新文化センターについて	ホールを作るときは、きちんとしたシアターの劇場の技術的な意見をきっちり押さえてもらわないと、中途半端なものが出てしまう。しっかりわかっている業者を入れて整備をお願いしたい。		ホールの設備や機能、運用面など細部に至るまで文化に係る有識者、専門技術者の意見を取り入れながら検討・整備を進めていきます。	参考
34		市民が訪れたい憩いのある空間で、常に人がいる複合施設を望む。カフェ、レストランはもちろん、リハーサル・スタジオ、ブックカフェ、地産物マルシェなど多様なものを併設を望む。		今後、公募により事業者の提案を受けることとなりますが、施設整備に当たっては、民間の持つ自由な発想に委ね、定常的に集客が行えるものとします。	参考
35	文化情報の発信と交流や賑わい創出について	他市から集客できる「七夕会館」など観光要素を組み入れた複合施設を検討願いたい。		賑わいの創出など、様々な側面から魅力あるホールの整備を進めます。	参考
36	小ホールの建設について	小ホール 300 人ぐらいで音響や照明がしっかりしたものを作ってほしい。	他 2 件	改訂整備方針では、小ホール単独で整備することは考えておりませんが、幅広い創作活動や発表会に対応するため、小ホールの機能を備えた、利便性や機能性の高い、多目的に活動いただけるスペースの設置を考えております。具体的な規模や機能については今後検討していきます。	参考
37		文化活動の面と芸術的な質の高い公演ということを考えると、自治体のホールを見ていると小ホールがあって当然だと考える。大小2つのホールは欲しい。			参考
38		300 席のホールが必要。席は可動式にして、フロアとして使えるようにすればよいと思う。舞台や照明など使い方を考慮して、施設を作ってほしい。			参考
39		小ホール(300 席)は音響、照明は充実してほしい。市民センターのカルチャースクールの発表とかアマチュア演劇の発展と使用範囲はかなりあり、市民の文化面の発展に寄与すると思う。			参考
40		大ホールだけでなく100~300名収容できる小ホールの併設を希望する。 現在の中央公民館小ホールのようなものでなく、座席は階段状とし舞台を観易くして欲しい。音響、照明などもお願いする。 演劇、音楽、ダンスなど、小規模なイベントを開催したい市民団体がたくさんいるが、現在の中央公民館小ホールは利用希望が多く、常に抽選で、ホールとしての設備も不十分。 また、小ホールは市内に2つくらいはあってよいと考える。			参考
41		演劇はあまり大きいのはよくないので、小ホールは500で良い。1,000席程度のものを作り、中央公民館が700席では中途半端である。市民利用だけで良い、非常に小さいホールを作るといふなら、崇善公民館のところに作ればよいのではないかと。		参考	

42	ホールの客席数について	<p>近隣のホールと比べると、市民センターは設備内容が悪い。今回、1,000 席を提示されたが、中央公民館と差がない。1,400 席の市民センターがあったときは、市内の小中学校の音楽会で活用していた。それだけの人員が入るだけのホールを作ってほしい。</p> <p>近辺のホールは電車の便が良いので平塚と同じ席数のホールであれば、平塚にはいい催しものや有名な人が来ない。その為、市外に出て、観たり聴きに行っていると聞く。1,400 席は絶対で、1,600 席くらいのホールの整備を望む。</p>		<p>本市は今後予想される人口減少や少子高齢化、さらに財政状況を踏まえて、将来に渡り持続可能な管理運営を目指しています。(仮称)新文化センターの整備につきましても、建設コストや維持管理コストを始めとした費用対効果、これまでのホールの利用実態を踏まえるとともに、今後の文化振興施策の推進や舞台使用者の使いやすさ、観客の鑑賞しやすさを重視した施設の整備を進めます。従いまして(仮称)新文化センターはコンパクトで使いやすい、基本性能を重視した 1,000 席程度を基本とします。</p>	参考
43		<p>席数については、人口が減少して来る。小学校や中学校の演奏会を親が観たいというのはわかるが、子供が減少している以上、両方の家族全員が来ることは考えにくいので 1,000 席で十分だと考える。</p> <p>それよりも大ホールのステージを可動式にして小ホールとして利用可能なようにする。リハーサル室を作るのであれば、そこを舞台として活用できるような設計があったらよいと思う。中央公民館の 700 席があるのであれば、その半分以下の施設をつくってほしい。</p> <p>何のためにホールを作っているのか、何のために市民と向き合っているのか、はっきりした方向性がないとただの箱ものを作っても後につなぐことが出来ない。未来に子供たちが何を観たよと楽しく語れるような、夢のある、ゆとりのあるホールを建設してほしい。</p>			参考
44		<p>感覚的には 1,000 席ではなく、もう少し積極的にあげた方がよいと思う。</p>			参考
45		<p>新ホール客席数は 1,000 席で良いと思う理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少を考慮・イベントなどでホールを利用する年間回数を毎月行うのなら、1,000 席以上は必要かと思うが、イベント内容が限られてくる。 ・興行《業者》だけがホールを利用するわけではない、市民団体も利用をする・学校行事でのホール使用時は全校挙げての行事ではない。少子化の現代、働く体制が変化しつつある現代にはありえないのではないか。 			参考
46		<p>中央公民館と市民センターは行政施策・用途が異なると思うが、実際には同じような利用をさせていることから、同程度の機能でない複合施設の検討を願いたい。ホールの客席数は有名なコンサートや演劇ができる規模(1200~1400席)のものを検討願いたい。</p>			参考
47		<p>大ホール 1,600~1,700 名収容のホールを望む。</p>			参考
48		<p>新ホールは大ホール 1,500 席を作ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館は 700 席なので、大ホールが 1,000 席だと使い方が中途半端になる。 			参考

49	ホールの客席数について	他の市の状況を見ると、1,000席では少ない。すばらしい文化センター等にして芸能人等呼んで平塚市・まちの活性化が必要。もっと立派な文化センターを作ってまちの活性化をしたら如何か。			参考
50		ホール客席数は、変更の可能性があるとのことだが、市民が活動するなら1,000席でよい。ただし、まちの活性化、プロモーターを呼ぶにはおそらく1,000席では来ない。採算が取れない、または、席料が相当高くなる。 使い勝手はきわめて悪い。1,000席程度では中央公民館とは使い分けができない。1,300席とか1,500席とかは必要なのではないか。首都圏全体でも不足しており、しっかりとした設備のあるホールを持てば、それぞれ全国からでも聴きに来る。まちも潤う。毎日でもプロが公演に来ることになれば経済効果も期待できる。			参考
51		ホールのキャパシティについて、建設費用とランニングコストの問題がある。1,000以上ということ望んでいるが、時代の趨勢としては「質」を重視している傾向があつて、他地区でも「質」の高い公演を行い、成功している流れの中で、客席については抑えている傾向があるが、1,000席ではなく、もう少し積極的にあげた方がよい。			参考
52	文化活動支援機能について	(素案)によると現在の市民センターは全面建て直しになるとのこと。この計画の影響により今後の活動に支障が出ないか不安を感じている。 市民センターにおける創作活動は市民の文化活動において重要な部分を占めており、市民センターの部屋なくして創作活動は不可能である。 市として、創作活動を支援していく方針とは聞いているが今後具体的計画の策定にあたって文化サークルの継続利用が可能になるよう一層のご配慮をお願いする。 1 新文化センター完成後も現在と同様の活動スペースの確保を願う。 2 出来るだけ早く建設スケジュール等を提示してほしい。 3 新文化センターの建設中、文化サークルは活動の場を失うことになりますので他の施設利用等代替の措置を希望する。		(仮称)新文化センターの会議室等の諸室については、様々な機能等を考慮しながら検討を進めます。建設スケジュールについては、確定次第、速やかにお知らせします。 (仮称)新文化センターの建設期間中における、代替施設の新たな整備は想定しておりませんが、市民センター閉館後の活動スペースについては、市民センターをご利用の皆様の利用の仕方などをお伺いしながら、一緒に検討をします。	参考
53	エントランス、動線について	エントランスホールを作ってほしい。現状の市民センターの使い方から考えると、ホールと会議室系統を作り、会議室系統の真ん中を通してエントランスホールに入るものを作って欲しい。		エントランスから続く諸室への動線については、利便性や回遊性など、利用者に十分配慮して整備します。	参考

54	崇善公民館について	移築した横浜ゴム記念館が、駅から美術館までの売りになっているように、崇善公民館も例えばカフェのような形で有効活用するのまちづくりの一つではないか。若者が遊ぶ、住みたくなるような街にするべき。		現崇善公民館の木造部分は昭和25年に建てられ、市議事堂として昭和39年頃まで使用され、その後改修を経て、崇善公民館として使われております。 利用者の安心安全を確保するため、多くの費用をかけて耐震補強をしても、現在の景観を維持することができず、歴史的価値が損なわれることや公民館の使い勝手が悪くなることから、現建物は解体しますが、建物の歴史的な役割等を重視し、記録保存とします。	参考
55		現在は、歴史的建築物は解体・破棄ではなく、保存・新たな用途での活用などがトレンドであると考えますが、現崇善公民館は、その余地は全くないのか。			参考
56		崇善公民館を解体し、記録保存とすることについて、まちの散策の時にお茶でも飲めるような、何らかの形で利益を生むような施設にできないものか。平塚市の議事堂であり、これまでも古い建物はどんどん消えていく。どうにか残してもらえないだろうか。経費が掛かるのは理解しているが、お金を生み出せるように事業を工夫して歴史的な建物が地域の目玉となるようなものできないものか。			参考
57	崇善公民館と市民活動センターの合築について	新しい崇善公民館を3階や2階半建てにし、一番上にホールを整備する。小ホールは100～150席程度のホールが良い。現在そうしたものが流行っている。100～200のホールができたとなると、使用する人のニーズは多いし、周辺都市にもないとすれば非常に魅力的なものとなる。		新崇善公民館については、近隣の地区公民館同様に大人数収容できるホールを整備する予定です。ホールの規模については現在調整中ですが、多機能に利用できるホールを整備します。	参考
58		早期整備としているBブロック計画は実態的には崇善公民館と市民活動センターの現行の利用実態を踏まえただけの合築となっているが、魅力ある街創りの為に、これは客席数300規模の小ホールを有するものとするべきでないか。			参考